

ます。これまでの調査結果と比較すると、本年4月より105人、昨年10月より194人増加しています。これは、株式会社伊徳のデリカセンターが9月から市営二井田工業団地で本格操業を開始したこと、ニプログループが継続的な設備投資を行いながら、それに伴う雇用の拡大を図ったことが大きな要因となっています。

ニプロ株式会社では、建設中の工場が今月操業開始予定であり、また、ニプロファーマ株式会社でも新工場棟の建設に着手して、来年以降順次増築する計画ですので、今後、新卒者、中途採用者を含め、さらなる雇用の増加が見込まれています。

今後、市民アンケートの結果や市民懇談会のご意見を踏まえ、3月定例会で、基本構想を提出します。

カメムシ被害で1等米比率減少 平成17年の農業

今年は、天候がおおむね良好に推移し、台風や豪雨などの影響もほとんどなく、各作物とも平年並み以上の生育状況となっています。

水稲は、東北農政局秋田統計・情報センターの発表による10月15日現在の作況指数が、県北で102の「やや良」ですが、本市では、カメムシ被害により、1等米比率が78%と低くなっています。今後はこれまで以上に防除実施の指導と周知を図り、被害の減少と等級の向上を目指し、「安心」「安全」な売れる米作りを推進していきます。

米の生産調整への取り組みは、平成16年度から変わった生産目標数量の配分方法が2年目となり、混乱もなくおおむね達成の見込みです。

「大館広域圏地域水田農業ビジョン」で重点戦略作物とした山の芋、アスパラガス、トンブリなどの作付面積は、ほぼ横ばいとなっています。今後産地化を進めるために農家の皆さんの一層の取り組みをお願いするとともに、ご協力をいただきました方々に、心から感謝申し上げます。

将来のまちづくり

合併協議で「合併後に新たな計画を策定する」とされていた新市の総合計画は、10月18日に助役を本部長とする「新大館市総合計画策定本部」を立ち上げ、策定作業を進めています。

総合計画は、市の振興計画の最上位に位置するもので、将来のまちづくりの基本理念や、将来都市像、施策の

新大館市総合計画の策定

大綱を明示した「基本構想」と、これに基づく「基本計画」、「実施計画」で構成していますが、基本構想と基本計画の第1次素案がまとまりました。

今後は、市民アンケートの結果や市民懇談会のご意見を踏まえ、3月定例会で、基本構想を提出します。

新大館市スタート

平成17年を振り返って



とが出来ました。また、平成16年3月から進めてきた旧比内町、旧田代町との合併協議が整い、6月20日に人口8万5千人の新大館市としてスタート出来たことは、議員各位を初

平成17年も、残り1カ月となりましたが、地方自治体を取り巻く環境は、ますます厳しさを増し、今年も広範な分野において、様々な変化に直面した1年でした。

こうした中、本市においては、中高一貫教育校「大館国際情報学院」の開校と、四年制大学「秋田看護福祉大学」の開学、PFI方式による大館クリーンセンターの本格稼働、市立総合病院増改築事業の工事着工など、長年の課題や施策に一定の成果と前進を見るこ

め、関係者、市民の皆さんのご理解ご協力のためであり、改めて敬意と感謝を申し上げます。

合併後、比内、田代両地域の皆さんとお話させていただく目的で、17回の懇談会を開催してきました。

今後、新市の一日も早い一体感の確立、住民福祉の向上及び地域の均衡ある発展を図りながら、「合併して良かった」と実感していただける「新大館市」の実現に向け、全力で取り組んでいきます。

そのほかの報告

- ・ 公の施設の指定管理者の候補者選定
- ・ 国勢調査の実施
- ・ エコタウンフェスタ in 大館・小坂
- ・ 秋まつり行事
- ・ 越山小学校の灯油漏れ事故
- ・ 大館市交流センターの県からの譲与
- ・ 大阪便の通年運航再開